

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
平成 25 年度第 1 回 理事会 議事録

〔開催日時〕平成 25 年 3 月 15 日（金）15:00～17:00

〔開催場所〕日本整形外科学会会議室

〔出席した理事〕持田讓治（理事長）、中村博亮（副理事長）、川上守（専務理事）、徳橋泰明（専務理事）、小森博達（常務理事）、紺野慎一（常務理事）、井口哲弘、加藤真介、川上紀明、高橋和久、橋本友幸、長谷川徹、平林茂、松山幸弘、米和徳

〔出席した監事〕佐藤哲郎、小西宏昭

〔オブザーバー〕(株)毎日学術フォーラム 鈴木めぐみ、松山幸恵

〔議事の経過の要領及びその結果〕

持田讓治理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

決議事項

1. 第 1 号議案 平成 24 年度決算案、平成 25 年度予算案について

徳橋泰明理事は、資料 1・1 及び資料 1・2 に基づいて平成 24 年度決算案、平成 25 年度予算案を説明した。各理事は慎重に審議し承認された。

2. 第 2 号議案 会長選挙の実施方法について

小森博達理事は、会長選挙の実施方法について説明をした。選挙の立会人として佐藤監事、小西監事、長谷川理事、橋本理事の 4 名が選出された。候補者 2 名のうちどちらかが過半数を獲得するまで選挙を繰り返す。白票は有効であり、投票数は公表しないこととなった。各理事は慎重に審議し承認された。

3. 第 3 号議案 名誉会員の推挙について

小森博達理事は、資料 2・1 及び資料 2・2 に基づき名誉会員の推挙について説明した。菊地臣一先生が推挙された。今後、理事会で名誉会員になる基準を決めていくこと、および名誉会員の資格とどのタイミングで推挙するかを決める必要があり、定款委員会で検討することとなった。各理事は慎重に審議し承認された。

審議・報告事項

1. 第 4 号議案 日本医学会総会報告

持田讓治理事長は、資料 3 に基づき日本医学会総会の報告を行った。一般社団法人

化をめざしていることや各学会の年度の負担費は5万円+100円×学会会員数となることなどが報告された。

2. 第5号議案 日本専門医評価・認定機構 平成24年度第2回社員総会報告
持田讓治理事長は、資料4に基づき日本専門医評価・認定機構の平成24年度第2回社員総会の報告を行った。2013年度に第3者機関の立ち上げ、2014年度から2015年度にBoardによる研修施設群の認定、研修プログラムの認定、2017年度から新後期研修医制度が開始されることなどが報告された。
3. 第6号議案 平成24年度会計監査報告
佐藤哲朗監事から平成24年度会計監査報告が行なわれ、適正に処理されていることが報告された。
4. 第7号議案 平成25年評議員会式次第案、会員総会式次第案
持田讓治理事から理事会が決定機関であるが、評議委員会で最終決定するとの提案があり承認された。
小森博達理事から平成25年評議員会式次第案、会員総会式次第案が報告され承認された。
5. 第8号議案 事務局移転の進行状況について
小森博達理事から事務局移転作業は順調に進んでいる旨の報告があった。事務局移転の会員へのお知らせは3月25日に通知する。
6. 第9号議案 臨床研究インセンティブについて
紺野愼一理事から臨床研究インセンティブについて、専門医・指導医新規申請・更新時に「登録1症例につき、申請時手術症例10例に換算することができる。」と一旦は理事会で決定されたが、白紙になっていることが報告された。今後、インセンティブ検討委員会を立ち上げ半年以内に原案を作成することとなった。各理事は慎重に審議し承認された。
7. 第10号議案 PVP 適正使用ガイダンスについて
加藤義治理事は、資料6に基づきPVP適正使用ガイダンスについて説明した。BKPの講習の受講は削除する。骨粗鬆症性圧迫骨折という用語は骨粗鬆症性椎体骨折に統一する。研修プログラムは継続して検討する。以上の条件で骨粗鬆症性椎体骨折に対するPVPを安全に行なうための指針は承認された。

事前決議事項

小森博達理事は、資料7に基づき以下の事前決議事項の報告があり、各理事は慎重に審議し承認された。

1. 第 11 号議案 2013 年 1 月～ 2 月入退会者および会費滞納による会員資格失効者について
2. 第 12 号議案 第 25 回学会奨励賞（大正富山アワード）受賞者について
3. 第 13 号議案 会長選挙における委任状について

次回の理事会は、4 月 24 日（水）14:00～15:00 に行う。

所要の議事を全て終了したため、議長は、閉会を宣言した。

以 上

平成 25 年 3 月 15 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 持田 讓 治

監 事 小 西 宏 昭

監 事 佐 藤 哲 朗